

発達支持的生徒指導の取組み **SWPBS** 「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」 (School Wide Positive Behavior Support)

貝塚市における現在の状況

生徒指導推進のための具体的施策

改訂された生徒指導提要では、子どもたちが未来社会において活用することができる生きる力を身につけるために、「**させる生徒指導**」から児童生徒の主体的な成長・発達を「**支える生徒指導**」をめざすことが示されている。その主旨を踏まえ、すべての児童生徒が自発的・主体的に成長・発達する過程を支える発達支持的生徒指導への転換を図る。

(令和6年度2学期末暴力行為発生件数)

→ R6小学校暴力行為発生件数：R5より1.7倍に増↑

→ R6中学校暴力行為発生件数：R5より1.1倍に増↑

→ R6小学校対教師暴力発生件数：R5より1.4倍に増↑

→ R6中学校対教師暴力発生件数：R5より0.7倍に減↓

※**暴力行為発生件数、対教師暴力は増加傾向にある。**

先行的にPBSに取り組んだ中学校では対教師暴力は減少傾向にある。

→ R6小学校不登校児童数：R5より0.9倍に減↓

→ R6中学校不登校生徒数：R5より0.9倍に減↓

※**不登校児童生徒数は減少傾向にある。**

(生徒指導の目的)

「生徒指導は、**児童生徒一人ひとりの個性の発見とよき可能性の伸長**と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。」
(『生徒指導提要(改訂版)2022』)

○発達支持的生徒指導の取組みとして

☆**SWPBS「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」**の取組み

→ 不適切な行動を「**罰則や叱責**」で減らすのではなく、望ましい行動を「**賞賛や承認**」することで、子どもたちの「**頑張った!**」「**成長した!**」と実感できる機会を増やしていくことをめざす。具体的には、行動前に、子どもが「**頑張ろう!**」「**なるほど!**」と思える仕掛けを行い、実際に子どもが望ましい行動をとった際には、「**頑張ったね!**」と称賛し成功体験につなげる。

Q：叱ることも大切だと思うのですが？

A：望ましい行動を学ばせたい場合、「叱ること」や「罰・ペナルティ」が持つ効果とは、基本的に「行動の抑制」に限定されます。「罰やペナルティの予告」によって、適切な行動を促すことができるかもしれませんが、それは単に児童生徒が罰から逃れようとしているだけです。児童生徒が、望ましい行動を学び、社会性を身につけることにはつながりません。

具体的な取組み

ポジティブ行動支援の取組みとして、一人ひとりのできている行動やできそうな行動に着目し、賞賛・承認を行う。

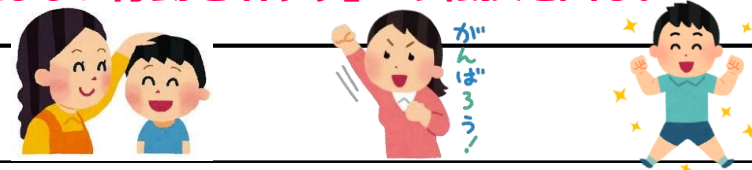
＜具体的な取組み＞

- 生徒指導担当を中心に、市SWPBSワーキングチームを設置し、ポジティブ行動支援についての取組みを交流することで、各校の実践をさらに進める。
- 専門家と連携し、定期的な研修会を実施する。
- 各校の実践事例をまとめ、Web上で公開する。



ゴール

児童・生徒が頑張る過程を大切にし、その努力をしっかりと認めて伸ばし、「問題行動を減らす」から「望ましい行動を増やす」への転換を図る。



【成果指標】

(定量的) 問題行動調査の数値の改善

(定性的) 全国学力・学習状況調査児童生徒アンケート結果の向上

- ①「学校へ行くのは楽しい」
- ②「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」
- ③「困りことや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」